

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500688		
法人名	株式会社 ライツベース		
事業所名	グループホームめぶきの杜	ユニット名:ソメイ	
所在地	宮城県仙台市泉区将監十丁目11番1号		
自己評価作成日	令和5年3月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔がめぶく場所」を事業所のスローガンとし、「忙しい中でも、笑顔と楽しむ気持ちを忘れずに。想いが伝わる・伝えられるユニットに」をユニット目標としております。お一人お一人との関わりを大切に、「その人と何が出来るか」という水平な関係性の中で、ご利用者が自分で選択したり、決定できるよう、「自分で決めて生活する権利」を心掛けながら一緒に生活しています。また、その方の残存能力を見極めながら、「できる事の継続」を応援し、充実した生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのホームは、仙台市北部のマンモス住宅団地である将監の一角に在る。近隣に遊歩道が整備された広い将監沼があり、畔の桜並木は地域の名所になっており、入居者も楽しみにしている。2022年4月1日に法人の分社化により(株)ライツベースとしてスタートしている。入居者の日常の報告や、毎月発行される「グループホームめぶきの杜新聞」等でホームでの生活ぶりを家族に発信している。家族からは様子がよく分かると安心感に繋がりがり家族との信頼感が厚い。個々にその人が有している力を活かして出来ることを継続し、喜ばれることを感じながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームめぶきの杜)「ユニット名 ソメイユニット」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・社是を念頭に置き日々従事していません。法人の理念・社是に基づく事業所スローガン、ユニット目標、個人目標を掲げ、年に2回管理者を中心とし、振り返りを行い、理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念を基に年度末に全員で作ったホーム独自の理念、「笑顔がめぶく場所」を休憩室に貼り共有している。ユニットの目標も掲げ、本人の思いに寄り添う支援をし、笑顔で居心地よく暮らせるよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入していますが、コロナウイルス感染予防対策の為、町内会のイベントが中止となっています。イベントが開催できる時期がきたら、参加できるよう、回覧板などで地域の情報を収集しています。	融雪剤配布等の情報を回覧から得たり、地域包括支援センター主催でホームが共催する「さくらカフェ」の中で交流が行われている。町内会行事のクリーン作戦や落ち葉清掃に参加することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、月1回開催していた認知症カフェの開催を中止していますが、感染者が減っている際には参加し情報交換を行っております。家族交流会の講師も行いました。近隣介護施設や医療施設、地域包括支援センターと地域活性に繋がる企画、運営に関わらせて頂き、2ヶ月に一回開催し、情報交換を行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はZOOMで開催することがありましたが、その後は他事業所への応援派遣などによりZOOMでの開催ができませんでしたが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等を郵送でお伝えしています。開催できる状況になったら、再度実施していきます。	メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員で構成され、5回は書面で1回はZoomで開催している。ホームの新聞や身体拘束廃止委員会の会議録等を郵送し、町内会の夏祭り等の情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、運営推進会議では地域包括支援センターの職員に必ず参加いただき、取り組みの報告をするともに、ご意見を頂戴しています。また、認知症カフェの集まりの場で定期的に意見交換を行っています。	入居者の結核感染について、保健所と半年毎の定期検査を受け、陰性の結果が出て今は落ち着いている。地域の集まりで、講師として介護施設の特徴や違い、大まかな料金などを講話している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束防止委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようになっています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整えています。	職員に不適切ケア(グレーゾーンカード)を提出してもらい身体拘束廃止委員会で集計、結果分析、対策について纏めた記録を全員が確認している。1人で外出する方が数名いるが、玄関のドアセンサーやGPS等を活用して所在を見守り、日中の施錠はしていない。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	3カ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、職員の振り返りを徹底することにより、身体拘束や虐待等の事例はない。職員に心配ごとや悩みがあれば相談しやすいように、管理者は日頃からコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡や書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりの仕方を教えるなど、実際の場で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努め、率直な意見をいただけるような関わりを大切にしています。意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、改善に努めています。	家族が気軽に要望を言える関係性が築かれている。遠方で暮らすひ孫に会わせたいとの意向があり、抗原検査をして面会が実現出来、喜ばれた。家事や編み物が趣味だったと聞き、本人のプランに入れ反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。	職員から空いた時間の活用の提案があり、掃除や洗濯物の家事に振り向ける等反映している。入居者が一緒に手伝うこともある。法人が実施しているチャレンジ制度で、職員のキャリアアップを応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける仕組みがあります。(ミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒に行うことの企画を行ってもらうなど、職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策の一環として、感染対策の研修に参加しています。また、必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらったり、評価をもらったりする機会を設けています。	介護事業所や薬局、整骨院、医師等異職種の集まりである「将監、桂、医療介護連携の会」で、専門的な情報が得られる。「さくらカフェ」で、ワクチン接種の副反応についての事例や体験した方の話を聞く機会があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族を含めた事前面談やご本人との事前面談を通じて、ご本人の想いや考えを聴取し、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう心がけ、関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に耳を傾けるよう努めています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、居宅介護支援事業所職員や利用していた施設・病院などからの情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。何よりも、ご本人とご家族が安心して生活していただけるように、必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が在宅時に行っていた役割をご家族から伺い、残存能力を見極めながら家事等を一緒に行っています。また、一緒に買い物に行った際に、野菜の選び方などのアドバイスを頂くなど、人生の先輩として助言を頂く事もあります。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活のご様子を伝えたり、毎月様子を伝える手紙と写真をお届けしています。また、ご家族と交流が図れるイベントをご利用者と一緒に計画・実施し、ご家族との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、実施できていませんが、ご主人様のお墓参りや他事業所に入居されている方に会いに行きたいという希望があれば、ご家族や他事業所と連絡を取り合いながら、なるべくご本人の意向に添えるよう、支援しています。	友人の多い方が、ビデオ通話の方法もあると知り活用し友情を深めている。誕生日をホテルで祝うのが慣例となっている方の出席の可否を、家族や法人とも話し合い感染予防の徹底を図り、食事会実現の支援に努めた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入り、お互いの事を理解し合ったり繋がりが持てるよう関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者のご家族と、年賀状のやり取りを行うなど、関係性を継続している方もおります。また、時々連絡を行い、入所先での生活の状況を伺ったり、ご家族から介護に対するアドバイスを求められる事もあり、持っている知識をお伝えする事もありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや、会話の中からご本人の想いを汲み取れるように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報を職員間で共有し、その方らしい生活ができるよう、支援を行っています。	テレビを見ている時に、行きたい所や食べたい物の会話が弾む。その日のメニューを変更して希望に沿うこともある。表出が困難な方は喜びの表情を感じ取ったり、辛そうだから休んでもらう等本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。その方の過ごし方も、季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送りで伝達するようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を立てています。ご自分の想いを上手く表現できない方の介護計画については、特に情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、計画を作成するようにしています。	本人の思いや家族の希望、医師、看護師等関係者の意見も入れプランを作成している。義歯の調整や食事形態の様子を見ながら食事量が上がる支援をしている。家族の意向から訪問マッサージを受けている方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し、月1回のミーティング時に日々の様子を話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態の変化があれば、情報共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、買い物、通院、個別外出の対応を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、デイケアや訪問マッサージの利用を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握したり、運営推進会議で町内会長や地域包括支援センターの職員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら、ご家族の要望や状況に合わせて付き添い支援をしています。また、ご家族が受診の付き添いを行う時は受診報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	全員訪問診療で受診している。精神科や眼科等の専門医の受診は通院である。看護職員が日常の健康管理をし、緊急時にはアドバイスや指示もある。口腔ケアを実施し、必要に応じて訪問歯科を受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について看護職員との相談体制を整え、急変や体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師に直接お伝えして、入院生活を安心して送れるように関係づくりを行います。現在は面会に行けない状況ですが、退院日が決定されたら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報はユニット内で共有します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所でできる事を検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からもご本人の昔や想いを伺うようにします。	入居時に「ホームは第2のお家なので、ここで最期まで過ごせます」と伝えている。文書化された指針を示し同意を得ている。今年度も看取りを実施している。新人職員の戸惑いが見られたが、研修での共通認識を振り返り、関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを行ってまいります。	夜間想定を含み火災の避難訓練を年2回実施している。居室のドアノブに掛けてある鉢巻を落として避難完了の目印にしている。2階ユニットの入居者の避難方法の検討と、地域の協力要請を引き続きお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者にあった対応や声かけを行っています。対応については、情報共有ノートで共有するとともに、毎月のミーティング時に振り返りの時間を設けています。	業務連絡時に、入居者に個人名が分からないように配慮している。名前か名字にさん付けで、尊重した呼びかけをしている。職員が友達感覚で接しているのを、第三者が見たらどう思うかにも気を付けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からご利用者の思いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り実現できるように、スタッフ間や、必要に応じてご家族にも協力してもらいながら、実現できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを尊重し、その方が希望されている事を優先して支援を行っています。また、毎日のペースを職員間で共有し、ご本人の負担にならないような生活が送れるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装にできるようにしています。また、季節に合わせてその方に合った衣服と一緒に準備したり購入するなどの支援をしています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、入居者から好評だったメニューを職員から募り、献立に取り入れています。一連の料理は難しくなっても、盛り付けだったら、片付けだったらと、その方の残存能力を見極めながら、一緒に準備や片づけを行っています。	ケータリングシステムを利用し、温めてから盛り付ける。おやつにパンケーキやクッキー作りを楽しんでいる。ホームの庭の柿が初めて実をつけ、入居者から渋抜きの方法を教わり、甘くなった頃合いを見て皆で食した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は栄養士に相談をしながら、食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄サインを見逃さないようにケアにあたっています。排泄のリズムや尿量もスタッフ全員で把握できるようにし、お一人お一人に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。	排泄チェック表を活用し誘導している。大腿骨骨折した方がソワソワする様子が見られた時、「用足し大丈夫ですか」と小声で声を掛け、トイレで排泄出来るまでに改善している。同性介助を希望する方には対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。また、内服薬だけに頼らず、スムージーを作って提供したりと工夫を行っています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ご本人の気分や身体状況に合わせたタイミングで入浴の声掛けを行っています。また、余裕をもってご自身で入浴準備ができるよう、予めおおよその入浴時間をお伝えしています。	自身で入浴の準備をする方に、予め入浴時間を伝えておきスムーズに入浴出来ている。職員を変え、時間を変え、タイミングを見ながらの声がけで入る方もいる。重度の方には、リフト浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中にどんなケアが必要かを考えながら、安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には、傾聴し、安心できるよう声掛けを行うと共に、入眠しやすい環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、大きな症状の変化等がないか観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人がこれまで歩んできた人生経験を活かし、得意なことや楽しみごとを大切に生活できるように支援しています。家事を一緒に行い、それぞれが役割を感じていただけるような支援をするとともに、習慣化に努めています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、外出の機会は減っていますが、近所への散歩や買い物と一緒にいくなど、ご本人の希望を伺いながら実施しています。入所前から通っていたデイケアへ行き、馴染みの友人や職員と会うのを楽しみにされている方もいます。	花見と紅葉見物のドライブ以外の外出支援が思う様に出来なかったが、近くの公園に散歩したり、ホーム内でのイベントを楽しんでいる。ホーム開設7周年記念や節分、母の日、父の日、七夕の短冊に書いた願い事、クリスマス会、初詣等の行事で笑顔が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただくようにしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に選び、その場でお支払いの内容を説明するなど、お金を使うことに対する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。手紙についても、一緒に便箋を購入しにいき、知人への手紙のやりとりをサポートしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにトイレが近い作りになっているので、臭いには特に気を遣い、消臭剤の設置や、掃除はこまめに行うようにしています。ご本人の同意を頂き、思い出の写真を廊下の設えにするなど、過去に行った楽しい記憶を呼び戻せるような工夫を行っています。	ホールの換気に配慮しており、膝掛などで寒さ対応をしている。ボリューム感が出る紙を使用し、桜の木に満開の花が咲いている。色画用紙の切り絵の花も天井から垂れて、皆で作った作品が春爛漫の雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。また、ゆっくり過ごしていただけるようソファを設けるなど、家具の配置にも工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、馴染みのある物や使い慣れた家具、寝具等をご持参いただいています。必要な物に関してはご家族に相談しながら、ご本人が安心して居心地よく過ごしていただけるように支援しています。	居室で過ごす方はさりげなく見守っている。家族の写真を飾り、馴染みの筆筒やテレビを持ち込んでいる。趣味の短歌で受賞した賞状を飾ったり、仏壇や位牌を置いている方もいて自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等の表札等により部屋がわかるように工夫しています。ご本人の力を活用できるようサポートを行い、個別に支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500688		
法人名	株式会社ライツベース		
事業所名	グループホームめぶきの杜	ユニット名:	ヨシノ
所在地	宮城県仙台市泉区将監十丁目11番1号		
自己評価作成日	令和 5年 3月 14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔がめぶく場所」を事業所のスローガンとし、「皆な笑顔で、居心地よーく、暮らせる場所にしよう!」をユニット目標としております。ご利用者、スタッフ共に一人ひとりの声に対し傾聴し、その方の個性を大切に、また自分の考えが発信できるような環境作りを一緒に実践しています。その方が実現したい事、その方が決めた事を話し合いをしながら調整し、「自分で決定し、生活する権利」を心掛けながら一緒に生活しています。また、その方の残存能力を見極めながら、「できる事の継続」を応援し、充実した生活が送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのホームは、仙台市北部のマンモス住宅団地である将監の一角に在る。近隣に遊歩道が整備された広い将監沼があり、畔の桜並木は地域の名所になっており、入居者も楽しみにしている。2022年4月1日に法人の分社化により(株)ライツベースとしてスタートしている。入居者の日常の報告や、毎月発行される「グループホームめぶきの杜新聞」等でホームでの生活ぶりを家族に発信している。家族からは様子がよく分かると安心感に繋がりがり家族との信頼感が厚い。個々にその人が有している力を活かして出来ることを継続し、喜ばれることを感じながら支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 3月 30日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームめぶきの杜)「ユニット名 ヨシノユニット」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・社是を念頭に置き日々従事しています。法人の理念・社是に基づく事業所スローガン、ユニット目標、個人目標を掲げ、年に2回管理者を中心とし、振り返りを行い、理念の共有や理解に向けた取り組みを実施しています。	法人理念を基に年度末に全員で作ったホーム独自の理念、「笑顔がめぶく場所」を休憩室に貼り共有している。ユニットの目標も掲げ、本人の思いに寄り添う支援をし、笑顔で居心地よく暮らせるよう実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入していますが、コロナウイルス感染予防対策の為、町内会のイベントが中止となっています。イベントが開催できる時期がきたら、参加できるよう、回覧板などで地域の情報を収集しています。	融雪剤配布等の情報を回覧から得たり、地域包括支援センター主催でホームが共催する「さくらカフェ」の中で交流が行われている。町内会行事のクリーン作戦や落ち葉清掃に参加することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染予防対策の為、月1回開催していた認知症カフェの開催を中止していますが、感染者が減っている際には参加し情報交換を行っております。家族交流会の講師も行いました。近隣介護施設や医療施設、地域包括支援センターと地域活性に繋がる企画、運営に関わらせて頂き、2ヶ月に一回開催し、情報交換を行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はZOOMでの開催を行いました、その後他事業所に応援派遣することがありその後は開催できていませんが、定期的に事業所の状況やコロナウイルス感染予防対策等を郵送でお伝えしています。開催できる状況になったら、再度実施していきます。	メンバーは町内会長や民生委員、地域包括職員で構成され、5回は書面で1回はZoomで開催している。ホームの新聞や身体拘束廃止委員会の会議録等を郵送し、町内会の夏祭り等の情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はまだ開催できていませんが、運営推進会議では地域包括支援センターの職員に必ず参加いただき、取り組みの報告をするとともに、ご意見を頂戴しています。また、認知症カフェの集まりの場で定期的に意見交換を行っています。	入居者の結核感染について、保健所と半年毎の定期検査を受け、陰性の結果が出て今は落ち着いている。地域の集まりで、講師として介護施設の特徴や違い、大まかな料金などを講話している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、法人として行わないことになっています。また、年4回、身体拘束防止委員会を開催するとともに、年2回、事業所内で勉強会を実施し、職員の理解を深めるようにしています。玄関は夜間以外は開放しており、自由に外に出られる環境を整えています。	職員に不適切ケア(グレーゾーンカード)を提出してもらい身体拘束廃止委員会で集計、結果分析、対策について纏めた記録を全員が確認している。1人で外出する方が数名いるが、玄関のドアセンサーやGPS等を活用して所在を見守り、日中の施錠はしていない。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内における勉強会を通して、職員の理解と意識づけに努めるとともに、定期的に職員内で日々の関わりの方について振り返りを行っています。	3カ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、職員の振り返りを徹底することにより、身体拘束や虐待等の事例はない。職員に心配ごとや悩みがあれば相談しやすいように、管理者は日頃からコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中に、後見人制度や日常生活自立支援を利用されている方もおり、担当者との連絡や書類のやり取りも職員が行っている為、経験年数のある職員から新入職員へやりとりの仕方を教えるなど、実際の場で覚える機会があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項などについて十分な説明をしています。不安や疑問点などを確認しながら説明を行い、理解・納得をいただいたうえでサービス利用を開始できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との電話連絡や面会時に日々のお話を通して意見や要望を集めるとともに、日頃からのご家族との信頼関係の構築に努め、率直な意見をいただけるような関わりを大切にしています。意見や要望をいただいた際は職員間で共有し、改善に努めています。	家族が気軽に要望を言える関係性が築かれている。遠方で暮らすひ孫に会わせたいとの意向があり、抗原検査をして面会が実現出来、喜ばれた。家事や編み物が趣味だったと聞き、本人のプランに入れ反映している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施しています。また、アンケートやミーティングなどを通じて職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。	職員から空いた時間の活用の提案があり、掃除や洗濯物の家事に振り向ける等反映している。入居者が一緒に手伝うこともある。法人が実施しているチャレンジ制度で、職員のキャリアアップを応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ制度を設け、自らが取り組んでいける仕組みがあります。(ミミズクチャレンジ・サクシードチャレンジ)また、ご利用者と一緒に行うことの企画を行ってもらうなど、職員がやりがいをもって主体的に働けるような環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修のほか、法人外の研修に関しては、職員の希望や能力に応じて自由に参加できるようにしています。新人育成に関してはプログラムに沿った「働きながらトレーニング」できる仕組みを設けています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナウイルス感染予防対策の一環として、感染対策の研修に参加しています。また、必要に応じて、系列施設に配置されている専門職へ働きかけ、知識をもらったり、評価をもらったりする機会を設けています。	介護事業所や薬局、整骨院、医師等異職種が集まりである「将監、桂、医療介護連携の会」で、専門的な情報が得られる。「さくらカフェ」で、ワクチン接種の副反応についての事例や体験した方の話を聞く機会があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに、ご家族を含めた事前面談やご本人との事前面談を通じて、ご本人の想いや考えを聴取し、ご本人が安心してサービスの利用を開始できるように努めています。また、信頼関係を構築できるよう心がけ、関わりを大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、話し合いの場を多く持ち、見学や電話連絡を通じて、ご家族の感じている不安・悩み・要望等に耳を傾けるよう努めています。また、信頼関係構築を心がけてご家族との関わりをさせていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、居宅介護支援事業所職員や利用していた施設・病院などからの情報収集を行い、必要としているサービスの見極めを行っています。何よりも、ご本人とご家族が安心して生活していただけるように、必要なサービスについて相談しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調を考慮しながら、ご本人がしたいことや長年行ってきた習慣を変えことなく行えるような環境を整え、役割やメリハリを持った生活を送れるようにしています。今までの経験や得意な事を活かして職員や他の入居者に様々な事を教えて頂きながら、生活しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で生活のご様子を伝えたり、毎月様子を伝える手紙と写真をお届けしています。また、ご家族と交流が図れるイベントをご利用者と一緒に計画・実施し、ご家族との絆を大切にしています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、実施が難しい時もありますが、毎年ご家族と行っていた行事なども感染症対策を行った上で、何度もご家族と調整しながら実施できました。	友人の多い方が、ビデオ通話の方法もあると知り活用し友情を深めている。誕生日をホテルで祝うのが慣例となっている方の出席の可否を、家族や法人とも話し合い感染予防の徹底を図り、食事会実現の支援に努めた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動・言動から、ご利用者同士の関係性の把握に努め、食事の席や居場所に配慮しています。外出や行事を通じて、ご利用者同士で交流できる機会を設け、職員が間に入り、お互いの事を理解し合ったり繋がりが持てるように関わっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者のご家族と折に触れ、電話連絡を行ったり、散歩の途中で寄って下さったご家族と昔話をしたりと関係性の継続を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや、会話の中からご本人の想いを汲み取るように配慮し、どんな些細なことでも知り得た情報を職員間で共有し、その方らしい生活ができるよう、支援を行っています。	テレビを見ている時に、行きたい所や食べたい物の会話が弾む。その日のメニューを変更して希望に沿うこともある。表出が困難な方は喜びの表情を感じ取ったり、辛そうだから休んでもらう等本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集をし、バックグラウンドアセスメント表を活用し、その方の生活歴をホームでの生活に取り入れられるよう、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできること・難しいことの把握を行い、できない所を補うように努めています。その方の過ごし方も、季節や心身の状態によって変化が見られるので、その際は生活記録や申し送りで伝達するようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族にケアの意向を確認し、関係者でケアカンファレンスを開催し、介護計画を立てています。ご自分の想いを上手く表現できない方の介護計画については、特に情報収集に努め、ご本人の立場に立ち、計画を作成するようにしています。	本人の思いや家族の希望、医師、看護師等関係者の意見も入れプランを作成している。義歯の調整や食事形態の様子を見ながら食事量が上がる支援をしている。家族の意向から訪問マッサージを受けている方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子について細かく記録し、月1回のミーティング時に日々の様子を話し合い、ケアの工夫、ご本人の状態の変化があれば、情報共有し、介護計画に反映させ、ケアを実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、買い物、通院、個別外出の対応を行っています。また、主治医よりリハビリなどの必要性が認められる場合は、デイケアや訪問マッサージの利用を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、回覧板などから地域行事を把握したり、運営推進会議で町内会長や地域包括支援センターの職員などからご意見をいただいています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら、ご家族の要望や状況に合わせて付き添い支援をしています。また、ご家族が受診の付き添いを行う時は受診報告書を作成し、病状や生活の様子をお伝えしています。	全員訪問診療で受診している。精神科や眼科等の専門医の受診は通院である。看護職員が日常の健康管理をし、緊急時にはアドバイスや指示もある。口腔ケアを実施し、必要に応じて訪問歯科を受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のご利用者に対する健康管理について看護職員との相談体制を整え、急変や体調不良時は指示を仰ぎながら対応を行っております。受診の報告や内服薬の変更時は、情報共有ノートに記入し共有を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提出し、普段のご本人の様子を病棟の担当看護師に直接お伝えして、入院生活を安心して送れるよう関係づくりを行います。現在は面会に行けない状況ですが、退院日が決定されたら、病院相談員と連携し、退院に向けて準備を行い、入院中の状況等の情報はユニット内で共有します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合における指針の説明をしています。その場面においてご本人やご家族の意向を随時確認しながら、事業所のできる事を検討して対応を行います。その人らしく最期を迎えられるように日頃の関わりを大切に、ご家族からもご本人の昔や想いを伺うようにします。	入居時に「ホームは第2のお家なので、ここで最期まで過ごせます」と伝えている。文書化された指針を示し同意を得ている。今年度も看取りを実施している。新人職員の戸惑いが見られたが、研修での共通認識を振り返り、関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画を策定し、急変時の対応や、事故発生時の応急手当の研修を行っています。また、定期的に職員間で急変時の対応を再確認したり、日頃から新人職員に対して看護師や経験年数のある職員より、対応について確認をしています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に冷静に対応できるように備えるとともに、災害時の備蓄品も確保しています。今後も運営推進会議等にて協力体制について話し合いを行ってまいります。	夜間想定を含み火災の避難訓練を年2回実施している。居室のドアノブに掛けてある鉢巻を落として避難完了の目印にしている。2階ユニットの入居者の避難方法の検討と、地域の協力要請を引き続きお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の人格を尊重し、その時々のご利用者にあった対応や声かけを行っています。対応については、情報共有ノートで共有するとともに、毎月のミーティング時に振り返りの時間を設けています。	業務連絡時に、入居者に個人名が分からないように配慮している。名前か名字にさん付けで、尊重した呼びかけをしている。職員が友達感覚で接しているのを、第三者が見たらどう思うかにも気を付けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりや会話の中からお利用者の思いや希望を把握するように努めています。把握した希望に関しては、可能な限り実現できるように、スタッフ間や、必要に応じてご家族にも協力してもらいながら、実現できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを尊重し、その方が希望されている事を優先して支援を行っています。また、毎日のペースを職員間で共有し、ご本人の負担にならないような生活が送れるよう配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅時の写真を持参して頂き、その方が好まれていた髪型や服装にできるようにしています。また、季節に合わせてその方に合った衣服と一緒に準備したり購入するなどの支援をしています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールから見える位置に、その日の献立を掲示し、楽しみにされている方がいます。また、お誕生日にはその方が好んで召し上がるメニューをお出しし、皆さんでお祝いをしたり、季節の物を取り入れ、一緒に準備から片付けまでを行っています。	ケータリングシステムを利用し、温めてから盛り付ける。おやつにパンケーキやクッキー作りを楽しんでいる。ホームの庭の柿が初めて実をつけ、入居者から渋抜きの方法を教わり、甘くなった頃合いを見て皆で食した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の疾病や体重を考慮し、必要時は栄養士に相談をしながら、食事や水分量の調整を行っています。状況に合わせて食事形態を変えたり、その方の好きな飲み物を提供し、水分量が確保できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕に関しては、その方の能力に応じた方法での口腔ケアを実施しています。口腔ケアの声掛け、義歯洗浄を支援しています。昼食後に関してはお一人お一人の生活習慣を考慮し、口腔ケアの声かけを行い対応しています。必要に応じて、定期的に訪問歯科による、アドバイスや指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄サインを見逃さないようにケアにあたっています。排泄のリズムや尿量もスタッフ全員で把握できるようにし、お一人お一人に合ったパットを選択し、皮膚トラブルや使用量が最小限になるよう努めています。	排泄チェック表を活用し誘導している。大腿骨骨折した方がソワソワする様子が見られた時、「用足し大丈夫ですか」と小声で声を掛け、トイレで排泄出来るまでに改善している。同性介助を希望する方には対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の副作用、食事量、運動、活動量、睡眠状況など日々の観察を行いながら原因を探し、個々の状況に応じた予防に努めております。また状況に合わせてながら薬調整など主治医との連携にも努めております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その方の希望に応じて入浴を行っています。ご自身で準備して入浴することが難しい方に対しては、その方が傷つかないよう配慮を行いながら、気分よく入浴できるように入浴支援を行っています。	自身で入浴の準備をする方に、予め入浴時間を伝えておきスムーズに入浴出来ている。職員を変え、時間を変え、タイミングを見ながらの声かけで入る方もいる。重度の方には、リフト浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠状況を把握し、日中にどんなケアが必要かを考えながら、安眠できるよう支援をしています。不安が強く、眠れない様子が見られる方には、傾聴し、安心できるよう声掛けを行うと共に、入眠しやすい環境作りにも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしています。効能や副作用の他に医師からの注意点、助言があれば記載し、状態観察の指標の一つにしています。また、大きな症状の変化等がないか観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人がこれまで歩んできた人生経験を活かし、得意なことや楽しみごとを大切に生活できるように支援しています。家事を一緒に行い、それぞれが役割を感じていただけるような支援をするとともに、習慣化に努めています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染予防対策の為、外出の機会は減っていますが、近所への散歩や買い物へ一緒に行くなど、ご本人の希望を伺いながら実施しています。また、食事の買い出しにも一緒に行っていたり、ご自身の持っているお小遣いで好きな物を買われる方もいます。	花見と紅葉見物のドライブ以外の外出支援が思う様に出来なかったが、近くの公園に散歩したり、ホーム内でのイベントを楽しんでいる。ホーム開設7周年記念や節分、母の日、父の日、七夕の短冊に書いた願い事、クリスマス会、初詣等の行事で笑顔が見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行った際、必要額を所持し、希望に応じてお支払いいただくようにしています。ご自分で支払いが困難な方でも、職員と一緒に選び、その場でお支払いの内容を説明するなど、お金を使うことに対する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があった際には、ご家族や知人の方に電話できるように支援しています。手紙についても、一緒に便箋を購入しにいき、知人への手紙のやりとりをサポートしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方が好まれる音楽や、ご家族が準備して下さったDVDを上映し、皆さんで楽しめる姿が見られています。また、コロナウイルス感染予防対策の為、換気を頻繁に行っていますが、暑さや寒さを不快に感じないように、冷暖房の調整や、入居者さん手作りのひざ掛けを利用させていただいたりしています。	ホールの換気に配慮しており、膝掛などで寒さ対応をしている。ボリューム感が出る紙を使用し、桜の木に満開の花が咲いている。色画用紙の切り絵の花も天井から垂れて、皆で作った作品が春爛漫の雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の性格や相性を考慮し、気の合う方同士でテーブルを囲み、一緒に過ごせる空間に配慮しています。また、ゆっくり過ごしていただけるようソファを設けるなど、家具の配置にも工夫をしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、新しいものではなく、今までご自宅で使用していた使い慣れたものをご持参いただいています。その方の心身状態の変化に伴い、安心して居室で過ごせるような工夫を行っています。	居室で過ごす方はさりげなく見守っている。家族の写真を飾り、馴染みの筆筒やテレビを持ち込んでいる。趣味の短歌で受賞した賞状を飾ったり、仏壇や位牌を置いている方もいて自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫したり、居室ドアやトイレ等の表札等により部屋がわかるように工夫しています。ご本人の力を活用できるようサポートを行い、個別に支援しています。		